

IV 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

1 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として、国際的に活躍する人づくりと新しい価値の創造により、社会の発展に貢献することを使命とし、以下のような教育サービスに関する目的を中期計画に掲げている。

『地域交流・地域連携・産学官連携等を通じて本校の教育研究の成果を社会に還元し、その連携協力を努める。また、地域の生涯学習機関としての役割を果たす。』

このような目的を達成するため、本校の地域への教育サービス活動は以下の点に重きを置いている。

1. 本校の地域貢献活動を企業や社会に明解に伝達できるよう、多様な媒体を用いた広報活動を展開する。
2. 地域の生涯学習機関としての役割を果たすため、公開講座、授業開放、オープンキャンパス事業、出前授業、図書館蔵書等を充実する。
3. 小中学校に対する理科教育支援活動を積極的に推進する。

2 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点に係る状況)

本校は、広報・交流委員会の下に地域交流分科会を設け(資料B-1-①-1)、十分に組織的・計画的に公開講座等の企画運営を行っている。公開講座等は、各学科の特色を生かした内容で企画・実施している。

(1) 教育サービスに関する広報活動

公開講座は毎年度計画的に実施しており、ポスター(資料B-1-①-2)、パンフレット等を三重県内各中学校等へ送付するほか、本校ウェブサイト、地元の「鈴鹿ホームニュース」等への案内記事の掲載を行い、小中学生・市民への周知に努めている(資料B-1-①-3)。なお当日の参加者にはテキストとして小冊子(資料B-1-①-4)を配布している。さらに、地元のケーブルテレビ局での案内放映、地元新聞には紹介記事(資料B-1-①-5)なども掲載されている。

公開講座等の実施内容は大きく「生涯学習に関する教育サービス」および「小中学生向けの教育サービス」の2つに分けられている。実施に当たっては鈴鹿市教育委員会、各種学協会から後援を受けているものも多い。それぞれの講座の目的・概要を以下に示す。

(2) 生涯学習に関する教育サービス

技術者向けの教育サービスとしては、授業開放の一環として実施する「工学専門講座」(資料B-1-①-6)において、本校専攻科の正規授業のうち60科目を公開講座として受講できるようにしている。授業内容は、大学の理・工学部と同等レベルのもので、教室の収容人員に余裕があれば1科目3名まで受講可能となっている。

また、平成5年度以降ほぼ毎年、毎年図書館主催の「文化講座」が開催され続けている(資料B-1-①-7)。加えて平成16年度以降は、三重県生涯学習センター主催の一般市民向け「みえアカデミックセミナー」(資料B-1-①-8)にて、本校の複数教員がセミナーを担当するようになった。

その他、地域の理科教育を目的として各種イベントへの参加を行っている。鈴鹿商工会議所の主催の「おいん鈴鹿産業フェスタ」では平成12年～20年度、毎年ものづくり教室などを実施していた。また、三重県主催の「三重県の21世紀リーディング産業展」、三重大学主催の「産学官研究交流フォーラム」にも本校の教員が毎年出展している。また、正規課程以外の学生の受け入れとして「科目等履修生」(資料B-1-①-9)、「研究生」(資料B-1-①-10)の制度を設け、社会人、卒業生、地域社会に広く門戸を開いている。

なお、「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的に掲げている、図書館蔵書の充実に関しては、基準8において示したように(資料8-2-①-1)年々確実に実践されて来ており、地域の人々の生涯学習に資する役割を果たしている。

(3) 小中学生向けの教育サービス

小中学校の夏休み期間を中心に、各学科の特徴を生かした講座である「ものづくり体験教室」を実施している(資料B-1-①-11)。また、例年9月の第一土曜日には「オープンカレッジ」(資料B-1-①-12)を実施しており、平成19・20年度までは地域開放事業が中心だったが、近年は数学・英語・物理実験などの模擬授業に重きを置かれている。地域の小中学校にて行う出前授業

は、鈴鹿市教育委員会主催によるSPP（Science Partnership Program）事業や理科支援特別講師等配置事業と合わせて平成19～23年度には延べ23校で実施され（資料B-1-①-13）、地域交流活動を推進する大きな役割を果たしている。

また、本校にて「中学校英語暗誦&スピーチコンテスト」（資料B-1-①-14）、「鈴鹿高専杯争奪中学校柔剣道大会」（資料B-1-①-15）等も毎年実施されており、多くの参加者を集めている。

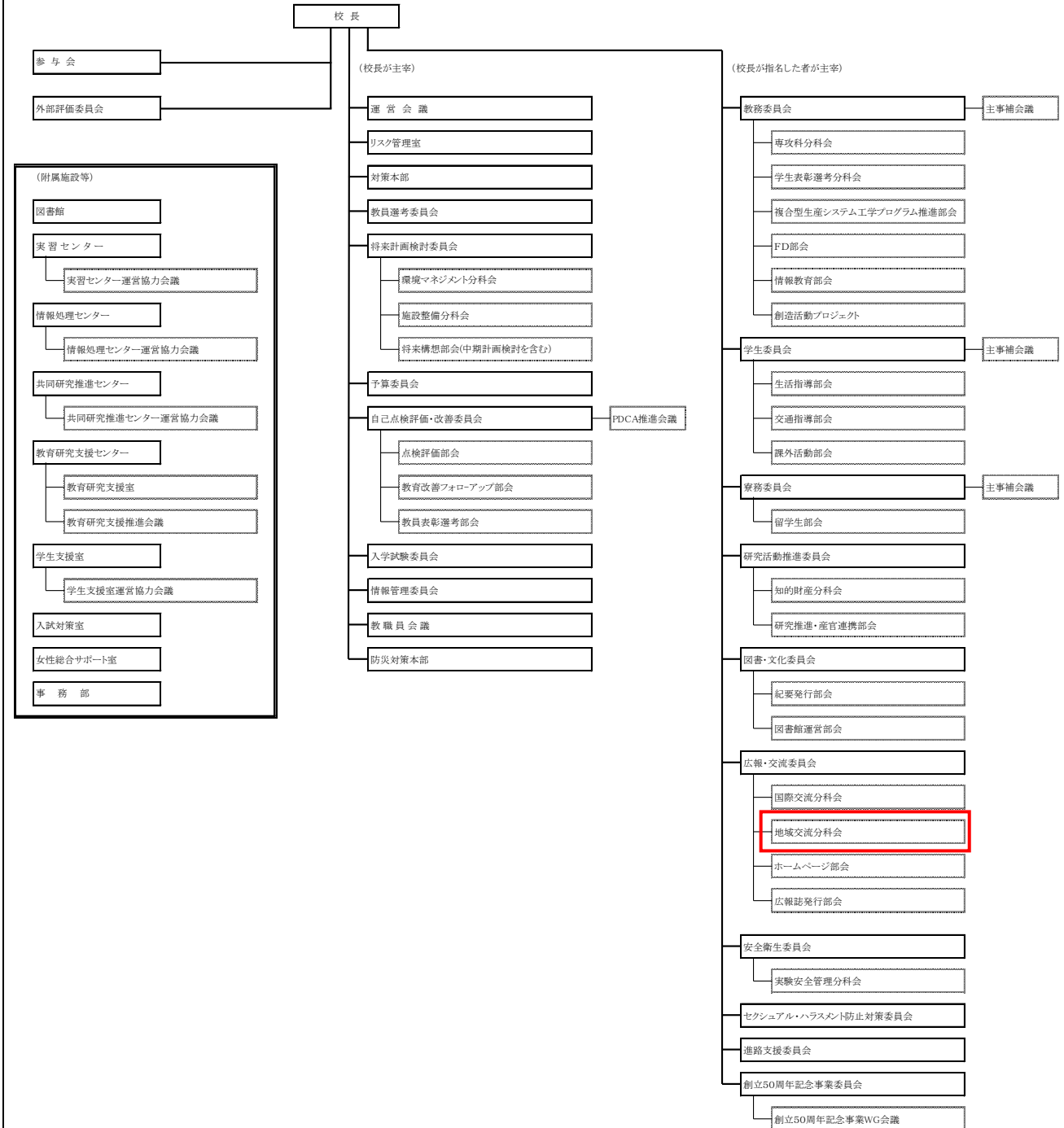
そして平成20年度に文部科学省の「女子中高生の理系進路選択支援事業」に採択され、21年度及び23年度は独立行政法人科学技術振興機構（JST）の事業となった、「続け、理系の卵たち！描け、貴女の未来予想図！」を実施しており（資料B-1-①-16）、女性理系研究者の講演会、公開授業・工作実習、職場訪問を行っている。このほか、平成17～21年度には、鈴鹿市商工会議所と連携し、鈴鹿市少年少女発明クラブの子ども達を対象に、「サイエンスフェア」を実施した。

さらに平成20年度からは毎年三重県主催の「子育て応援！わくわくフェスタ」（資料B-1-①-17）に出展し、県下の子どもや保護者に対して鈴鹿高専の研究成果を紹介し、交流活動を行っている。

加えて平成23年度より、白子駅前のショッピングセンター内に鈴鹿高専駅前キャンパス「鈴鹿高専みんなの理科教室」を常設し、鈴鹿高専の学校紹介パネルの他、科学実験器具や科学図書などを展示し、夏休みの小学生向けの工作教室（資料B-1-①-18）など、種々の講習会を催している。

平成24年度実施体制組織図

平成24年4月1日現在



(出典 総務課資料)

今年の夏も鈴鹿高専が熱い！！

鈴鹿高専 体験教室

楽しみながら、
科学を学ぼう



機械工学のひとつま 【機械工学科】

機械工学に関する製作や簡単な実験をし、参加者が楽しみながら知識を身に付けることができる講座です。気軽に参加してください。終了後に希望者には、受験相談も実施します。

- (1) ロボットをプログラミング
- (2) ブリッジコンテスト
- (3) 体験エコエネルギー

開催日 ①7月29日(金)、②8月23日(火)
9:30～15:30

対象者 小学校5・6年生及び中学生
定員 各開催日ごとに20名
締切 7月15日(金)
材料費 無料

やさしいエレクトロニクス教室

【電気電子工学科】

テレビ、パソコン、携帯電話など私達の日常生活は電気に囲まれた生活をしています。電気そしてエレクトロニクスについて近年忘れがちな「ものを作る喜び」を体験して頂きながら電気について理解を深めて頂きます。

電気に関する簡単なおもちゃの製作や鈴鹿高専の紹介、希望者への受験相談なども実施します。

開催日 ①7月25日(月)、②7月26日(火)
9:30～15:30

対象者 小学校5・6年生及び中学生
定員 各開催日ごとに10名
締切 7月15日(金)
材料費 無料

乗り物のコンピュータ制御の～い・ろ・は～

【電子情報工学科】

自動車ではモーター制御、エンジン制御、姿勢制御、キーレスエントリーなど、いろいろな機能がマイコン(マイクロコンピュータ)によって動いています。また赤外線リモコンは身近なテレビ、ビデオ、エアコンなどのリモコンとしても使われています。この教室では、赤外線とマイコンを使って模型自動車を動かす赤外線リモコンを製作し、マイコンやプログラムがどのように関わっているかについて学習してもらいます。

開催日 8月4日(木) 9:30～16:30

対象者 中学生
定員 15名
締切 7月20日(水)
材料費 無料

身のまわりのおもしろ化学実験

【生物応用化学科】

- (1) バイオディーゼル燃料を作ってみよう
- (2) サインペンの色素を分ける
- (3) 色、色々
- (4) 磁石にくっつく液体の不思議
- (5) 遺伝子DNAを使って絵を描こう
- (6) 顕微鏡で細菌を観察してみよう

開催日 8月2日(火)・3日(水) (2日間)
10:20～16:00

対象者 中学生
定員 48名
締切 7月26日(火)
材料費 無料

※この公開講座は、日本化学会東海支部より助成金の交付を受けています。

材料科学の夏の祭典2011

「科学捜査で事件を解決！

体験材料分析リサーチャー」

【材料工学科】

鈴鹿高専材料工学科で事件が発生しました。

参加者の皆さんには材料分析リサーチャーとして事件を解決していただきます。手がかりは、(1)謎の液体、(2)謎の粉末、(3)謎の金属の3つです。材料工学科の最新分析装置を使用して、手がかりの正体をあばき、事件を解決してください。

開催日 8月9日(火)10:00～15:30
小学生5・6年生対象
8月10日(水)10:00～15:30
中学生対象

対象者 小学校5・6年生及び中学生
定員 小学生、中学生共に20名
締切 7月29日(金)
材料費 無料

環境とクリーンエネルギーを学ぼう2011

【教育研究支援室】

環境エコ講義につづき、本校の環境関連施設・機材(太陽電池発電、風力発電、ソーラーカー、低燃費カー、の見学、及びソーラー発電と燃料電池の実験を予定しています。

開催日 8月9日(火) 10:00～15:30

対象者 小学校5・6年生及び中学生
定員 20名
締切 7月25日(月)
材料費 無料

申込先: 〒510-0294 鈴鹿市白子町
鈴鹿工業高等専門学校 総務課地域連携係 宛

問い合わせ先: 総務課地域連携係(田中)
電話: 059-368-1717
ホームページ: <http://www.suzuka-ct.ac.jp/>

※個人情報の取り扱いについて
取得した個人情報は、公開講座関係以外の利用や第三者への提供を行いません。

申込方法:「Web」又は「往復はがき」で申込み

- 「Web」(本校ホームページから申込可能)
- 「往復はがき」での申込方法
- ・往信表面(通信面)には、希望受講名(「**機械工学のひとつま**」「**やさしいエレクトロニクス教室**」については、**希望日も第1, 2希望を必ず記入**)、郵便番号、住所、電話番号、氏名(ふりがな)、性別、学校名、学年、保護者名を記入してください。
- ・返信表面(宛名面)には、郵便番号、住所、氏名を記入してください。
- ・応募者多数の場合は、原則、先着順としますが、主催者側で調整することがありますのであらかじめご了承ください。
- ・参加費: 無料



[Redacted text block]

(出典 「鈴鹿ホームニュース」[中日新聞 平成 23 年 7 月 10 日付折込み])

平成 23 年度 ものづくり体験教室

コンピュータ制御の ～い・ろ・は～

鈴鹿工業高等専門学校 電子情報工学科

平成 23 年 8 月 4 日 (木)

講座の概要

コンピュータという言葉を知ったことがないという人は多いと思います。ではコンピュータといったら、君は何を思い出すでしょうか。

パソコン？ ゲーム？ エアコン？ 電子レンジ？ 電車？ 自動車？

キーボードやディスプレイが接続されたパソコンでワープロや表計算、ゲームなどを行うこと、又は DS などのゲーム機でゲームを行うことを思い起こす人が多いのではないのでしょうか。

この他、飛行機、自動車、電車、家庭内では電子レンジ、洗濯機、エアコン、冷蔵庫、ビデオデッキなどの電化製品には必ずと言ってよいほどコンピュータが内蔵され、これによって動いています。また、テレビ、エアコン、ビデオデッキなどの赤外線リモコンにもコンピュータが内蔵されています。このようなコンピュータは組み込み型コンピュータと言われ、コンピュータは製品に内蔵されていますからパソコンのように外観からはうかがい知ることができません。

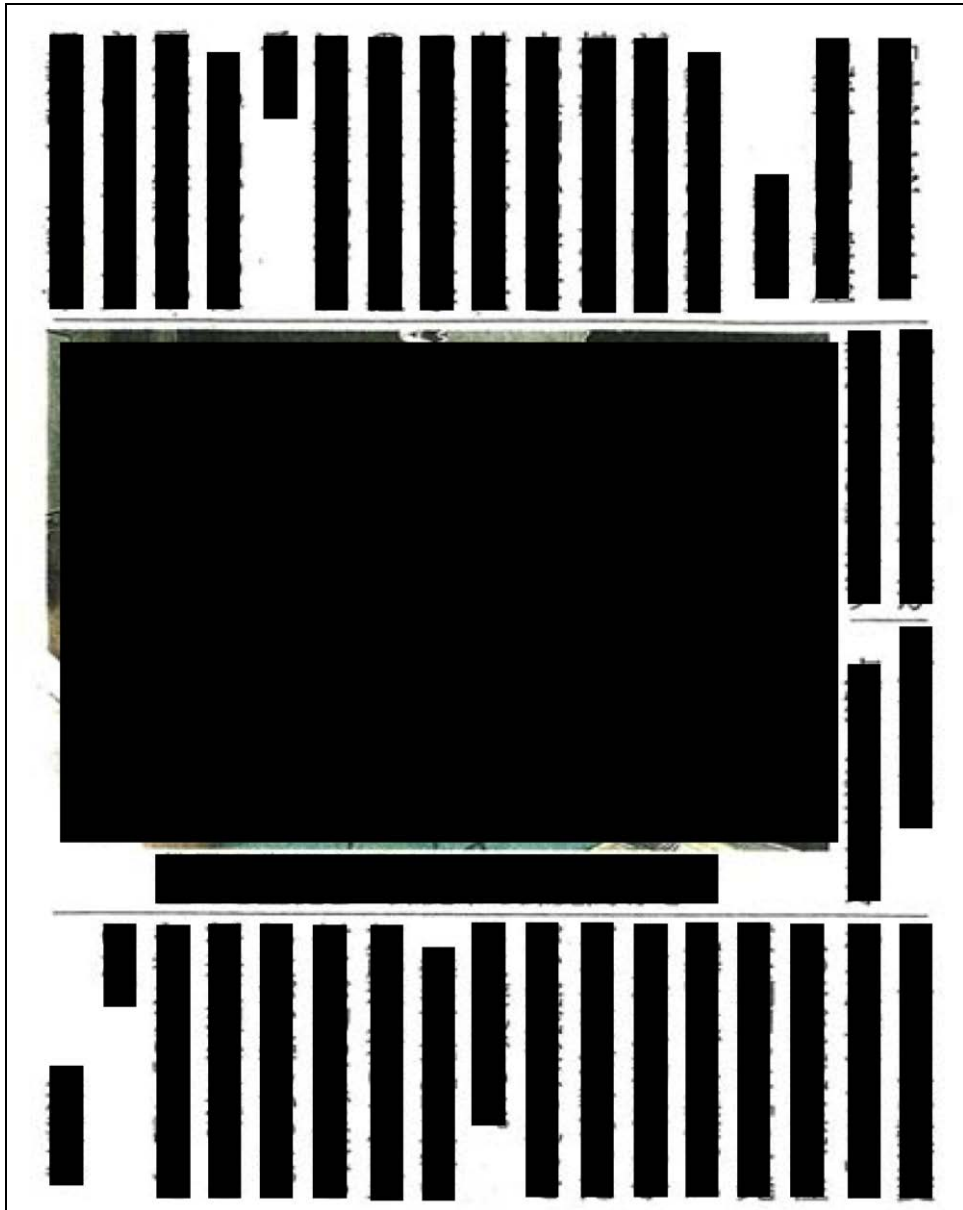
この講座ではタカラトミー社の Q ステアを操作する赤外線リモコンを製作し、組み込み型コンピュータの概要について学びます。

本日のスケジュール

9 時 30 分	あいさつ、諸注意
9 時 45 分	マイコンとは
10 時 30 分	リモコンの製作
12 時 00 分	昼食
12 時 45 分	プログラミングの仕方
14 時 30 分	プログラム設計
16 時 15 分	アンケート記入
16 時 30 分	終了

(出典 電子情報工学科資料)

資料B-1-①-5



(出典 「中日新聞」平成23年7月28日付)

工学専門講座（平成23年度）

一般市民，企業の方を対象に，本校専攻科工学専門の講義を受講していただく公開講座です。

これは鈴鹿工業高等専門学校が行う学校開放活動の一環で，専攻科が開設している正規の授業を開放し，生涯学習に対する社会的要請にこたえとともに，地域社会と高専との連携をますます深めようとするものです。

開放されている授業の受講に当たっては，受講生として登録していただく必要があります。

会場は，専攻科棟等の講義室となります。詳細は，下記の募集内容をご覧ください。

実施内容

工学専門講座の科目について

工学専門講座の科目は，平成23年度専攻科前期時間割表 (pdf) 及び平成23年度専攻科後期時間割表 (pdf) の中で黄色で示す科目です。講座内容については，本校シラバスをご覧ください。

なお，工学専門講座の受講生には，単位認定を行いませんので，あらかじめご了承ください。

開講期間及び授業時間

開講期間は，前期（平成23年4月8日～平成23年8月1日）及び後期（平成23年10月3日～平成24年2月10日）です。

授業時間

《中 略》

募集人員

原則として1科目につき3名以内とします。なお，正規の授業の一部を開放し，本校の学生と一緒に受講していただくことから，教室の収容能力の関係等で，次のような場合は受講できないことがあります。

- 本校の学生のみで教室の収容人員を超えた場合
- 工学専門講座の募集人員を超えた場合

受講手続

受講資格

授業開放科目の受講資格は，広く理工系の学問分野に興味と意欲のある方であれば，学歴は問いません。なお，授業内容は，大学の理・工学部と同等レベルのものとなります。

（出典 本校ウェブサイト）

最近の図書館主催「文化講座」実施状況

- 第15回 平成19年度(2007)
「読む(生きる)楽しみ」
講師 教養教育科(人文) 奥貞二先生
- 第16回 平成20年度(2008)
「エディンバラ留学と読書 - 『違い』との遭遇」
講師 教養教育科(外国語) 斉藤園子先生 参加者 約80名
- 第17回 平成21年度(2009)
「理工系の学生にむけた読書のすすめ」
講師 教養教育科(理科) 丹波之宏先生 参加者 20名(一般市民0)
- 第18回 平成22年度(2010)
「シェイクスピアの魅力」
講師 教養教育科(外国語) 松尾江津子先生 参加者 51名(一般市民3名)
- 第19回 平成23年度(2011)
「電気と磁気と夢のある話 ~情報爆発の時代~」
講師 電気電子工学科 大津孝佳先生 参加者 18名(一般市民0)

(出典 図書館資料)

みえアカデミックセミナー2011で講演(2011/8/10)



8月2日(火)に、三重県総合文化センターで夏休み期間に開催中の「みえアカデミックセミナー2011」において、本校電気電子工学科の大津孝佳教授が「電気と磁気と夢のある話—情報爆発の時代—」と題して講演を行いました。このセミナーは三重県内15校の高等教育機関と三重県生涯学習センターが主催し、それぞれの特徴を存分に活かした公開セミナーで、各校が1日ずつ担当するものです。大津先生の電気と磁気にまつわる話に集まった一般市民約100名が熱心に耳を傾けていました。

(出典 本校ウェブサイト)

○ 科目等履修生規則

平成 16 年 4 月 1 日
規則 第 17 号

最終改正平成 19 年 3 月 5 日

科目等履修生規則

(趣旨)

第 1 条 鈴鹿工業高等専門学校学則（平成 16 年学則第 1 号）第 60 条第 4 項の規定に基づき、科目等履修生に関し必要な事項を定める。

(入学資格)

第 2 条 科目等履修生として入学することができる者は、履修科目毎に定める次の要件の一に該当する者とする。

(1) 学科において開設する科目を履修する場合

- イ 高等学校を卒業した者
- ロ 本校において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(2) 専攻科において開設する科目を履修する場合

- イ 高等専門学校を卒業した者
- ロ 本校において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学の出願手続)

第 3 条 科目等履修生として入学を志願する者は、次の各号に掲げる書類に検定料を添え、学期開始 3 週間前までに校長に願出しなければならない。

- (1) 科目等履修生入学願書(別記様式第 1)
- (2) 履歴書
- (3) 前条に定める入学資格を明らかにする書類
- (4) 健康診断書
- (5) 現に職を有している者は、勤務先所属長の承諾書(別記様式第 2)

(入学者の選考及び許可)

第 4 条 科目等履修生の選考は、原則として書類審査により、校長が行う。

- 2 校長は、前項に規定する審査に当たっては、関係の学科長又は専攻科長並びに教養教育科長及び授業科目担当教員の意見を徴するものとする。
- 3 校長は、科目等履修生として適当と認め、かつ、入学料を納入した者に入学を許可する。
- 4 入学を許可された者は、入学時までに誓約書(別記様式第 3)を提出しなければならない。

(再入学者の例外措置)

第 5 条 本校の科目等履修生であった者が、当該履修の終了後 1 年以内に再び科目等履修生として入学を志願する場合、第 3 条に規定する入学の出願手続については、同条の「3 週間前」は「1 週間前」と読み替え、かつ、同条の第 2 号から第 4 号までに掲げる書類の提出を免除するとともに、入学の許可

は、前条第1項の規定にかかわらず、選考の手続きを省いて行うことができる。

(在学の期間)

第6条 科目等履修生の在学の期間は、原則として1年以内とし、年度を超えることはできない。

(履修科目)

第7条 学生の授業に支障を来たすおそれがある場合には、校長は、科目等履修生の当該科目の履修を許可しないことがある。

(指導教員)

第8条 校長は、科目等履修生に対し履修に関する必要な助言を与えるため、指導教員を定める。

(授業料の納付)

第9条 検定料、入学料及び授業料の額は、独立行政法人国立高等専門学校機構の定めるところによる。

(授業料の納付期限等)

第10条 授業料は、所定の期日までに納付しなければならない。

2 既納の検定料、入学料及び授業料は、還付しない。

(単位の認定)

第11条 科目等履修生が所定の科目を履修し、単位を修得したときは、校長は単位修得認定書(別記様式第4)を授与する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 科目等履修生規則)

○ 研究生規則

〔平成16年4月1日
規則第16号〕

最終改正平成19年3月5日

研究生規則

(趣旨)

第1条 鈴鹿工業高等専門学校学則(平成16年学則第1号)第59条第2項の規定に基づき、研究生に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

(入学資格)

第2条 研究生として入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学科において研究する場合

イ 高等学校を卒業した者

ロ 本校が高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(2) 専攻科において研究する場合

イ 高等専門学校を卒業した者

ロ 本校が高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(出願手続)

第3条 研究生を志願する者は、次の各号に定める書類を校長に提出しなければならない。

(1) 願書(別記様式第1)

(2) 履歴書

(3) 前条の資格を証明する書類

(4) 健康診断書

(5) 現に勤務している者は、勤務先所属長の承諾書(別記様式第2)

2 研究生を志願する者は、前項の出願の際に検定料を納付しなければならない。

(出願の期日)

第4条 研究生の出願の期限は、2月末日とする。ただし、特別の事情があるときは、この限りでない。

(入学者の選考)

第5条 研究生の選考は、原則として書類審査により、校長が行う。

2 校長は、前項に規定する審査に当たっては、関係の学科長又は専攻科長並びに教養教育科長及び指導教員の意見を徴するものとする。

(入学の許可)

第6条 校長は、前条による選考に合格した者が所定の期日までに入学料を納付したときは、入学を許可する。

(入学の期間)

資料B－1－①－10続き

第7条 研究生の入学の時期は、学年の始めとする。ただし、特別の事情があるときは、この限りでない。

(研究の時期)

第8条 研究の期間は、1年以内とする。

2 研究の期間が終了してもなお研究を継続しようとする者は、研究継続願（別記様式第3）に第3条第5号に定める書類を添えて校長に願い出るものとする。

3 校長は、前項の願出があつたときは、これを許可することができる。

4 研究期間の継続許可を得た者の検定料及び入学料は、徴収しない。

(検定料、入学料及び授業料)

第9条 研究生の検定料、入学料及び授業料の額は、それぞれ独立行政法人国立高等専門学校機構が定める額とする。

2 授業料は、在学予定期間の毎6月分に相当する額をそれぞれの期間における当初の月に納付しなければならない。ただし、在学予定期間が6月未満であるときは、その期間分に相当する額を当該期間の当初の月に納付するものとする。

3 既納の検定料、入学料及び授業料は、返還しない。

(指導教員)

第10条 研究生に研究上必要な指導助言を与えるため、指導教員を置く。

(授業等への出席)

第11条 指導教員が研究上必要と認めるときは、教科担当教員の許可を得て研究生をその講義または実験、実習等に出席させることができる。

(研究報告)

第12条 研究生がその研究を終了したときは、研究報告書を指導教員を経て校長に提出するものとする。

(証明書の交付)

第13条 校長は、研究生の願出により、その研究事項について証明書を交付することができる。

(退学、除籍)

第14条 研究生が途中で退学しようとするときは、その旨を指導教員に願い出て、校長の許可を受けなければならない。

2 校長は、研究生が病気その他の理由により成業の見込がなく、研究生として不相当と認められるときは、指導教員の申請により除籍することができる。

(研究費)

第15条 研究に必要な特別の費用は、研究生の負担とする。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 研究生規則)

ものづくり体験教室



この体験教室では実験やものづくりの楽しさを体験していただきます。

鈴鹿高専への入学を目指している方、ものづくりが好きな方、パソコンが好きな方等々、鈴鹿高専でしか体験できない驚き、感激、感動を味わいましょう。

受講料は無料です。

機械工学のひとこま 機械工学科

機械工学に関する製作や簡単な実験をし、参加者が楽しみながら知識を身に付ける講座です。気軽に参加してください。終了後に希望者には受験相談も実施します。

1. ロボットをプログラミング
2. ブリッジコンテスト
3. 体験エコエネルギー



開催日時	第1回:7月29日(金)、第2回:8月23日(火) 9:30~15:30 申し込みにあたっては必ずどちらかの希望日を記入して下さい。
定員	小学5・6年生及び中学生 各開催日ごとに20名
締切	7月15日(金)
材料費	無料

(出典 本校ウェブサイト)

資料8

オープンカレッジの開催について

目的 来年度の進路先を決めるにあたり、本校をよりよく知っていただくため。

開催日時 9月3日（土）、4日（日） 9：00～16：00

実施内容

学校紹介（30分）	学校紹介ビデオ放映・入試説明	9:30～	10:10～	12:40～						
模擬授業（30分）	国語（過去問の解説）	○								
	英語（過去問の解説）		○		○		○		○	
	数学（過去問の解説）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	物理実験	○		○	○		○		○	
	化学実験		○		○		○		○	
学科見学（30分）	各学科に分かれ紹介	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	受験相談	教養教育科と各学科による受験相談		11:00～16:00						
学生寮見学	低学年男子寮及び女子寮の見学		11:30～		12:00～		12:30～			
展示・デモ クラブ見学	ロボコン・ソーラーカーなど		11:00～15:30							

- ※1 昨年までの学校説明会（8月開催）とオープンカレッジ（9月開催）を併せて開催する。
- ※2 模擬授業等の複数回実施するものは全て同じ内容とし、参加者が選択できるものとする。

（出典 教職員会議資料）

出前授業について

年度	実施日	学校名	学年	クラス数	人数	実施内容	学科	担当
23	11月14日	鈴鹿市立鈴峰中学校	2		87		電気電子工学科	辻
	11月18日	鈴鹿市立旭が丘小学校	6		144	電池と磁石でモーターを作ろう	電子情報工学科	箕浦
	12月13日	鈴鹿市立長太小学校	5		58		電気電子工学科	辻
	12月20日	鈴鹿市立愛宕小学校	4	3	93		生物応用化学科	下野
22	11月12日	鈴鹿市立旭が丘小学校	4	5			機械工学科	末次
	11月5日		6	3		モーターを作る	電気電子工学科	(箕浦)
	11月26日		6	2		モーターを作る	電子情報工学科	箕浦
	12月7日		5	5		温度が変わると?	生物応用化学科	下野
21	6月5日	鈴鹿市立平田野中学校	3	1	30名	物理実験(電子の比電荷測定実験)	教養教育科	土田、
	2月18日	鈴鹿市立旭が丘小学校	5	2	65名	光を作って力を計ろう	機械工学科	末次
	2月19日		6	2	67名	紙コップスピーカーの製作	電気電子工学科	北村、川口
	2月23日		5	3	94名	温度が変わる?	生物応用化学科	下野
	3月8日		6	2	69名	波について	教養教育科	田村
20	8月25日	鈴鹿市立神戸中学校 パソコン部	-	-	14名	鈴鹿市教育委員会SPP事業:パソコン部の高専訪問(ライトレーサーによるコンピュータ自動制御の学習・体験)	電子情報工学科	桑原
	12月24日	鈴鹿市立神戸中学校 パソコン部	-	-	15名	鈴鹿市教育委員会SPP事業:パソコン部の高専訪問(HPのアニメーション制作)	電子情報工学科	田添、西村、秦
	8月27日、28日	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	-	-	20名	鈴鹿市教育委員会SPP事業に係る本校訪問による授業	ロボコンプロジェクト	富岡、近藤(邦)他
	12月18日	鈴鹿市立白子中学校 理科部	-	-	24名	鈴鹿市教育委員会SPP事業:理科部の高専訪問(「おもしろ理科実験」(化学・生物・電磁気・電子顕微鏡))	教養教育科(物理) 生物応用化学科 材料工学科	土田、生貝、下野、南部教員
	5月21日	津市立西橋内中学校	1	4	134名	液体窒素の実験	生物応用化学科	下野
	1月22日	津市立辰水小学校	4~6	?	17名	科学クラブ特別授業(入門的講座)	生物応用化学科	下野
	1月29日	津市立雲出小学校				液体窒素の実験	生物応用化学科	下野
19	11月17日	鈴鹿市立神戸小学校	5,6	2	80名	波としての空気:音	教養教育科(理科)	田村、仲本
	12月7日	鈴鹿市立愛宕小学校	5	3	104名	モータの仕組みとその応用	機械工学科	埜、民秋、
	12月12日	鈴鹿市立愛宕小学校	6	2	74名	方位磁針作り	電子情報工学科	平野、伊藤

(出典 総務課資料)

資料 1 1

第25回鈴鹿工業高等専門学校中学生英語暗誦& スピーチ・コンテスト実施要項

1. 日 時 平成23年10月22日(土) 13時から(参加者数によっては、時間を早める場合もあります。)
2. 場 所 鈴鹿工業高等専門学校 視聴覚室
3. 主 催 鈴鹿工業高等専門学校
4. 後 援 鈴鹿市教育委員会、中日新聞社
5. 協 賛 稲垣書店
6. 参 加 資 格 近隣中学校在校生
7. 発 表 方 法 (1) ロールプレイの部(1校1チーム 2~5名)
現行の教科書等から抜粋した課題の中から一編を選び役割を分担して暗誦する。
時間制限有り 準備を含めて7分以内とする。
(2) スピーチの部(1校2名)
生徒個人の自由な意見、感想、体験を3分以内の時間で英語にて発表する。3分を経過した時点で打ち切りとする。
8. 審 査 員 鈴鹿工業高等専門学校 教養教育科外国語教員
鈴鹿市教育委員会 外国語指導助手
9. 表 彰 ロールプレイの部: 1~3位 賞状ならびに記念品
スピーチの部 : 1~3位 賞状ならびに記念品
10. 申 込 先 鈴鹿工業高等専門学校 学生課学生支援係
11. 申 込 期 限 平成23年9月30日(金)
12. 経費負担区分 教育後援会・事業費・課外活動援助費
英語暗誦コンテスト校長杯等経費

(出典 教職員会議資料)

資料12-3

第25回鈴鹿高专杯争奪

中学校剣道大会要項

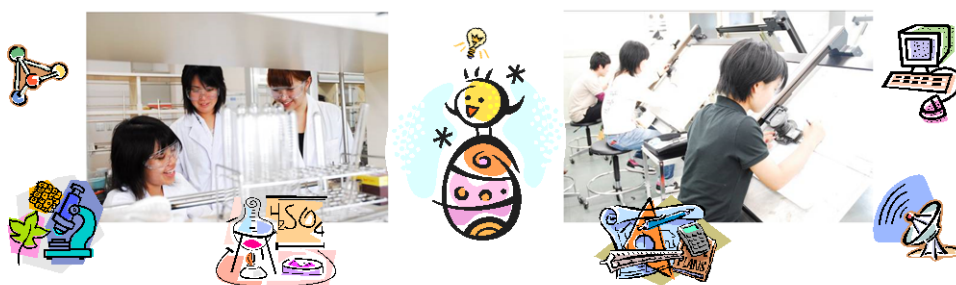
1. 日 時 平成23年10月 8日(土) 受 付 8:00
開 会 式 9:15
試合開始 9:45
2. 会 場 鈴鹿工業高等専門学校第1体育館
3. 主 催 鈴鹿工業高等専門学校
4. 後 援 三重県剣道連盟、鈴鹿市教育委員会
5. 参加資格 三重県下中学校在学中の生徒(3年生の出場歓迎します。)
6. 競技種目 団体試合(各校男女各1チーム)選手5名・補欠2名を登録
7. 競技規則 (財)全日本剣道連盟剣道試合・審判規則及び同細則による。
8. 試合方法
 - ・ 試合方式は参加校の数により決定する。
 - ・ 試合時間は3分3本勝負とし、勝負がつかない場合延長せず、引き分けとする。
 - ・ チームの勝敗は、勝者数の多い方を勝ちとする。ただし勝者が同数の時は取得本数の多い方を勝ちとする。なお、取得本数も同じ場合代表戦を行う。代表戦は任意の選手による1本勝負で、時間を区切らず勝敗の決するまで行う。
 - ・ リーグ戦を行う場合の順位決定は、勝ちを1点、引き分けを0.5点とし点数の多いチームを上位とする。ただし、同点数の場合は勝数の多いチームを、勝数も同数の場合は、勝者数の多いチームを、勝者数も同数の場合は取得本数の多いチームを上位とする。
 - ・ なお、順位が決定しないときは、代表戦を行う。代表戦は任意の選手による1本勝負で、時間を区切らず勝敗の決するまで行う。
9. 表 彰 優勝、準優勝、3位まで表彰する。
10. 申 込 先 〒510-0294 鈴鹿市白子町
鈴鹿工業高等専門学校 細野 信 幸 (教養教育科 体育・武道教室)
TEL・FAX 059-368-1755 (直)
(FAXで申し込みをされる場合は必ず電話にて到着確認をお願いします。)
11. 申込期限 平成23年9月9日(金)必着
12. その他注意事項 ① 貴重品の管理は各校・個人で責任を持って行ってください。
② ゴミは各校・各自で持ち帰り、会場美化に努めてください。

(出典 教職員会議資料)

平成23年度 科学技術振興機構（JST）『女子中高生の理系進路選択支援事業』

続け、理系の卵たち！ あなた 描け、貴女の未来予想図！2011

女子中高生の
皆さん！



理系に興味のある女子中高生の皆さん！ この企画に参加して、
理系分野で活躍するあなた自身の未来予想図、
描いてみませんか？

1

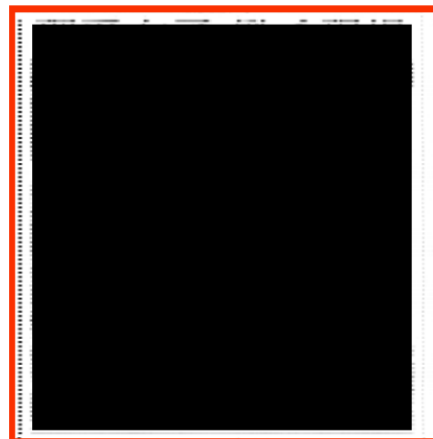
取材・報道



H23. 8. 20
中日新聞

H23. 9. 3
朝日新聞

H23. 8. 20
伊勢新聞



その他、
・三重テレビ、
・ケーブルネット鈴鹿
・JST 雑誌「Science Window」取材
(サイエンスのお仕事図鑑) 12

(出典 教職員会議資料)

「第6回子育て応援！わくわくフェスタ」に出展（2012/1/19）



平成24年1月14日(土)・15日(日)の両日、「メッセージング・みえ」にて開催された「第6回子育て応援！わくわくフェスタ」に出展しました。県内の子育て・次世代育成支援を行っている企業・団体91ブース(企業50、団体41)が出展し、26,000人(14日12,000人、15日14,000人)を超える来場者で賑わいました。本校の体験ブースにも多くの親子連れが訪れ、「入浴剤を作ろう」をテーマに楽しんでもらいました。入浴剤は市販の発泡性入浴剤と同じように、無水硫酸ナトリウム、クエン酸、重曹を原料にして作られ、クエン酸と重曹の混合物に水を加える事により二酸化炭素が発生します。また、硫酸ナトリウムは実際の温泉の成分にもよく含まれている成分です。

(出典：本校ウェブサイト)

なつやすみ ちびっこ 工作教室
 夏休み ちびっこ 工作教室
 8月30日 (火)

ごぜん11時～ごご5時 (材料がなくなるとおわりです)

参加費無料

内容：コップにお線かきして、トースターでやけば出来上がり。



ふしぎ?

形がかわった



場所：3階「鈴鹿高専みんなの理科教室」

参加してみませんか?

人数は50名程度

(出典 機械工学科資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、広報・交流委員会の下に地域交流分科会を設け(資料B-1-①-1)、十分に組織的・計画的に公開講座等の企画運営を行っている。公開講座等は、各学科の特色を生かした内容で企画され、ウェブサイトなどを通して実施計画を十分周知した上で実施している。また、対象者に応じて、「生涯学習」「小中学生向け」の2分野を開講している。「出前実験教室」及び「子育て応援!わくわくフェスタ」では、本校の専門学科5学科のほかに教養教育科の教員も分担して持ち回りで担当している。

以上のことから、本校は、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスを十分計画的に実施している。

観点B-1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点到に係る状況)

(1) 教育サービスに関する広報活動

「本校の地域貢献活動を企業や社会に明解に伝達できるよう、多様な媒体を用いた広報活動を展開する。」という目的に即し、「ものづくり体験教室」において、近年ウェブサイトによる広報活動が充実し、特に平成23年度より、5学科足並みをそろえてのウェブ上での申し込み受付(資料B-1-②-1)を開始したことにより、受講者数の大幅な増加を見ることができた(資料B-1-②-2)。

(2) 生涯学習に関する教育サービス

「工学専門講座」では、平成21年度に1名の受講生があった。また、選択的評価事項Aで触れたように、平成18年度～20年度、中小企業庁(経済産業省)の「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」を実施した(資料A-1-②-16, 17)ことも、こうした技術者向け講座の一環としてとらえられる。平成23年度からは、鈴鹿商工会議所ならびに鈴鹿市ものづくり産業支援センターと連携してこの人材育成事業は継続している。

平成16年度より毎年参加している「みえアカデミックセミナー」には、平成23年度は100名の参加者があった。また、平成12年～20年度の間毎年出展していた「おいん鈴鹿産業フェスタ」の本校出展ブースには、例年数百人以上の参加者を数えていた。アンケート結果は概ね好評であり、満足度も高かった(資料B-1-②-3)。また「研究生」「科目等履修生」の制度があり、平成19年度より平成23年度まで延べ5名が在籍した(資料B-1-②-4)。

(3) 小中学生向けの教育サービス

本校では公開講座の実施に当たって、大半の講座で参加者に事後アンケートを行い満足度に関する把握にも努めている(資料B-1-②-5)。また、アンケート結果を講座の担当で分析し翌年以降への企画の指針としている。

「ものづくり体験教室」は中学生が主な参加者であり、平成23年度の参加者は205名に達している。アンケート結果の一部ではあるが、コンピュータとは「おもしろい」、また講座に「満足できた」と答えている参加者がそれぞれ90%を超えており、満足度が非常に高いと言える(資料B-1-②-6)。

「オープンカレッジ」は平成11年より実施しているが、毎年600名前後の来場者があり、地域開放お

よび入試広報のイベントとして定着している。そしてすべての実施行事で満足度の高いアンケート結果が寄せられている（資料B-1-②-7）。

「出前実験教室」は、平成23年度においては鈴鹿市内の小中学校で行われた。参加者は延べ382名を数える。鈴峰中学校アンケートの設問においては、「十分満足できた」「満足できた」と答えた参加者は全体の90%以上に及び、参加者の満足度は極めて高いと言える（資料B-1-②-8）。さらに「中学生英語暗誦&スピーチコンテスト」「鈴鹿高専杯争奪中学校柔剣道大会」でも多くの参加者を集めている（資料B-1-②-9）。

活動の成果を検証し、教育サービスの改善を図るための体制として、広報・交流委員会の下に地域交流分科会を設けている（資料B-1-①-1）。地域交流分科会で全体の活動状況を把握し、年度末の部会活動報告等において活動の成果を検証し改善を行っている（資料B-1-②-10, 11）。

平成23年度 ものづくり体験教室 参加申し込み

申込みを希望する講座ごとに申込みをして下さい。一度に一講座のみ申し込みされるよう、お願いします。

申込者が定員を上回る場合は、抽選となります。抽選結果はメールでお知らせいたしますので、受信可能なメールアドレスを入力し、当日までにメールの確認をお願いします。

希望受講名	参加希望日
<input type="radio"/> 機械工学のひとこま(機械工学科)	第一希望 <input type="radio"/> 7月29日 <input type="radio"/> 8月23日 第二希望 <input type="radio"/> 7月29日 <input type="radio"/> 8月29日 <input type="radio"/> なし
<input type="radio"/> やさしいエレクトロニクス教室(電気電子工学科)	第一希望 <input type="radio"/> 7月25日 <input type="radio"/> 7月26日 第二希望 <input type="radio"/> 7月25日 <input type="radio"/> 7月26日 <input type="radio"/> なし
<input type="radio"/> 乗り物のコンピュータ制御のいろいろ1は〜(電子情報工学科)	<input type="radio"/> 8月4日
<input type="radio"/> 身のまわりのおもしろ化学実験(生物応用化学科)	<input type="radio"/> 8月2日と8月3日の両日
<input type="radio"/> 材料科学夏の祭典2011 「科学捜査で事件を解決！(体験材料分析リサーチ)」(材料工学科)	小学生対象 <input type="radio"/> 8月9日 中学生対象 <input type="radio"/> 8月10日
<input type="radio"/> 環境とクリーンエネルギーを学ぼう 2011(教育研究支援室)	<input type="radio"/> 8月9日

氏名

よみがな

学校名
 群/市 中学校
 小学校

学年
 年生

郵便番号

住所

電話番号

保護者氏名

メールアドレス(受付確認のメールをお送りします)

メールアドレス(確認のため再入力)

(出典 本校ウェブサイト)

資料B-1-②-2

ものづくり体験教室 参加人数調査票

学科 / 年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
機械工学科 機械工学ものづくり教室 機械工学のひとこま	51	30	40
電気電子工学科 やさしいエレクトロニクス教室	0	18	48
電子情報工学科 乗り物のコンピュータ制御の～い・ろ・は～	12	17	20
生物応用化学科 身のまわりのおもしろ化学実験	30	28	45
材料 材料科学の夏の祭典・キャンパスエコツアー 工学科 「科学捜査で事件を解決！体験材料分析リサーチャー」	10	13	72
教育研究 燃料電池でエコ／水素と酸素からできる電池 支援室 環境とクリーンエネルギーを学ぼう	13	21	18
合 計	116	127	243

(出典 総務課資料)

資料B-1-②-3

第10回おいん鈴鹿産業フェスタ（平成20年度）
作りにおいん 「液晶のアクセサリ屋さん」 アンケート

《2日間合計 アンケート集計》

- 1. 小学生 111名
- 2. 中学生 8名
- 3. 高校生・大学生 3名
- 4. 一般（大学生以上） 138名
（幼稚園児 12名）
- 計 289名（複数回答あり）

- 今回のブースについて、満足できましたか？
- 1. 十分満足できた。 189名
- 2. 満足できた。 78名
- 3. 普通。 8名
- 4. やや満足できなかった。 0名
- 5. 不満足 3名
- 計 278名

- 内容は難しかったですか？
- 1. とても難しかった。 16名
- 2. 難しかった 104名
- 3. 普通 106名
- 4. 少し簡単だった。 15名
- 5. 簡単だった。 37名
- 計 278名

- 今回のブースの感想や、気がついたことがありましたら、ご記入願います。

(出典 中期計画自己点検評価報告書 p.705 資料3-38)

資料B-1-②-4

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
研究生	0	1	0	3	1
科目等履修生	0	0	0	0	0

(出典 学生課資料)

資料B-1-②-5

平成19年度開催	人数	アンケート	対象
機械工学のひとこま	45	◎	中学生
やさしいエレクトロニクス教室	20	◎	中学生
Flashで動く！魅せる！！ホームページ作り	21	◎	小学5・6年生、中学生
身のまわりのおもしろ化学実験	62	◎	中学生
材料科学の夏の祭典	24	◎	小学5・6年生、中学生
発電機をつくろう	20	◎	小学5・6年生
みえアカデミックセミナー	52	◎	一般
親子でエコ体験	22		小学校4年～中学校3年生(親子)
鈴鹿少年少女発明クラブ(サイエンスフェア)	27	◎	小学校4年～6年生
オープンカレッジ	608	◎	小中学生・一般
波としての空気：音	80		小学5・6年生
モータの仕組みとその応用	104		小学5年生
方位磁針作り	74		小学6年生
平成20年度開催	人数	アンケート	対象
機械工学のひとこま	46	◎	中学生
やさしいエレクトロニクス教室	22	◎	中学生
乗り物のコンピュータ制御の～い・ろ・は～	14	◎	中学生
身のまわりのおもしろ化学実験	39	◎	中学生
材料科学・夏のミステリーツアー	37	◎	小学5・6年生、中学生
手作りモータと初歩的なロボットをつくろう！	17	◎	小学5・6年生
みえアカデミックセミナー	50	◎	一般
オープンカレッジ	599	◎	小中学生・一般
おいん鈴鹿産業フェスタ	400	◎	幼稚園児・小中学生・一般
親子でエコ体験	27		小学校4年～中学校3年生(親子)
鈴鹿少年少女発明クラブ(サイエンスフェア)	27	◎	小学校4年～6年生
子育て応援！わくわくフェスタ			乳児・保育園児・幼稚園児・小学生・一般

資料B-1-②-5 続き

平成21年度開催	人数	アンケート	対象
みえアカデミックセミナー	52	◎	一般
機械工学ものづくり教室	51	◎	小学5・6年生、中学生
乗り物のコンピュータ制御の～い・ろ・は～	12	◎	中学生
身のまわりのおもしろ化学実験	30	◎	中学生
材料科学の夏の祭典・キャンパスエコツアー	10	◎	中学生
燃料電池でエコ／水素と酸素からできる電池	13	◎	小学5・6年生、中学生
発明協会三重県支部 体験型知財教育支援事業			小学4～6年生
鈴鹿少年少女発明クラブ(サイエンスフェア)	40		少年少女発明クラブ員
女子中高生の理系進路選択支援事業 理系分野で活躍する女性の講演会	37	◎	女子中高生
女子中高生の理系進路選択支援事業 公開授業、見学・体験、工作実習	40	◎	女子中高生
女子中高生の理系進路選択支援事業 理系女性が働く職場訪問	23	◎	女子中高生
第4回「子育て応援！わくわくフェスタ」			乳児・保育園児・幼稚園児・小学生・一般
平成22年度開催	人数	アンケート	対象
みえアカデミックセミナー2010	52	◎	一般
機械工学のひとこま	30	◎	中学生
やさしいエレクトロニクス教室	18	◎	小学5・6年生、中学生
乗り物のコンピュータ制御の～い・ろ・は～	17	◎	中学生
身のまわりのおもしろ化学実験	28	◎	中学生
材料科学の夏の祭典・キャンパスエコツアー	13	◎	中学生
環境とクリーンエネルギーを学ぼう	21	◎	小学5・6年生、中学生
第5回「子育て応援！わくわくフェスタ」			乳児・保育園児・幼稚園児・小学生・一般
平成23年度開催	人数	アンケート	対象
みえアカデミックセミナー2011	100	◎	一般
機械工学のひとこま	35	◎	小学5・6年生、中学生
やさしいエレクトロニクス教室	47	◎	小学5・6年生、中学生
乗り物のコンピュータ制御の～い・ろ・は～	20	◎	中学生
身のまわりのおもしろ化学実験	36	◎	中学生
材料科学の夏の祭典2011 「科学捜査で事件を解決！ 体験材料分析リサーチャー」	67	◎	小学5・6年生、中学生
環境とクリーンエネルギーを学ぼう2011	17	◎	小学5・6年生、中学生
第6回「子育て応援！わくわくフェスタ」			乳児・保育園児・幼稚園児・小学生・一般

(出典 総務課資料)

資料B-1-②-6

平成23年度 ものづくり体験教室 『コンピュータ制御の～い・ろ・は～』 2011/8/4(木) 受講者数:20名											
	難しい	ふつう			やさしい	おもしろくない		ふつう		おもしろい	
1. コンピュータとは	6	7	5	1	1	0	0	1	1	18	
2. リモコンの製作	2	7	7	3	1	0	0	1	7	12	
3. プログラミングの仕方	7	3	8	2	0	0	0	2	4	14	
4. プログラム設計	7	7	3	3	0	0	0	1	4	15	
5. 自動走行に挑戦	7	8	0	1	1	0	0	1	4	12	
※実施した人数:17 自動走行まで行かなかった:3											
	満足できなかった	ふつう			満足できた						
6. 本講座の満足度			1	1	18						
	学校の掲示	学校の先生	鈴鹿市広報	鈴鹿高専HP	友人						
7. 本講座をどこで知ったか	8	2	0	10	2						
※複数回答2名											
	学校の掲示	鈴鹿高専HP	その他								
8. オープンカレッジどこで知ったか	7	10	2								
※知っていた:18 知らなかった:2 ※複数回答1名											
	参加する	未定	参加しない								
9. オープンカレッジの参加可否	15	4	1								
10. 一番印象に残ったことは？											
・プログラミングが難しかったこと										2	
・プログラミングが成功したときの達成感										2	
・プログラミングを書くこと										4	
・赤外線が目で見れたこと											
・勉強(内容)が難しいが、その分できたときはうれしかった											
・プログラミングが難しかったが、やりがいがあり、面白かった											
・コンピュータのしくみやマイコンについての説明があり、とてもよくわかった											
・リモコン製作										3	
・ラジコンの自動走行										2	
・自分でプログラミングした動きを自動車がしてくれたことがうれしかった											
・はんだ付け											
・ラジコンカーが動いたこと										2	
・この学科でどのようなことをするのかよくわかったこと											
・初めてプログラミングでハードウェアの制御ができたこと											

(出典 電子情報工学科資料)

オープンカレッジアンケート 結果

参加者： 383人(うち中学生 217人) / 1日、222人(うち中学生 113人) / 2日 計 605人(うち中学生 330人)

A 鈴鹿高専の印象について

1. 大変よかった	2. よかった	3. 普通	4. あまりよくなかった	5. よくなかった	計
136	44	5	0	0	185

B 本日の「オープンカレッジ」について

-1 全体の印象について

1. 大変よかった	2. よかった	3. 普通	4. あまりよくなかった	5. よくなかった	計
127	50	6	0	0	183

-2 各イベントの印象について

(1) 学校紹介

1. 大変よかった	2. よかった	3. 普通	4. あまりよくなかった	5. よくなかった	計
103	53	14	1	0	171

(2) 模擬授業

	1. 大変よかった	2. よかった	3. 普通	4. あまりよくなかった	5. よくなかった	計
国語	11	6	3	1	0	21
英語	25	12	3	0	0	40
数学	43	20	5	0	2	70
物理	38	9	1	0	0	48
化学	48	12	0	0	0	60

(3) 専門学科見学

	1. 大変よかった	2. よかった	3. 普通	4. あまりよくなかった	5. よくなかった	計
M	38	18	0	0	0	56
E	33	14	1	1	0	49
I	39	10	2	0	0	51
C	26	11	0	0	0	37
S	24	3	2	0	0	29

(4) 受験相談

1. 大変よかった	2. よかった	3. 普通	4. あまりよくなかった	5. よくなかった	計
25	3	1	0	0	29

(5) 展示およびデモンストレーション

1. 大変よかった	2. よかった	3. 普通	4. あまりよくなかった	5. よくなかった	計
44	13	7	0	0	64

C 鈴鹿高専を受験したいと思いましたか

1. ぜひ受験したい	2. できれば受験したい	3. 受験を考えた	4. わからない	5. 受験しない	計
124	32	17	7	0	180

(出典 学生課資料)

資料B-1-②-8

平成23年度 鈴峰中学校における出前授業アンケート（電気電子工学科実施分）
平成23年11月14日実施

1. あなたは今、何年生ですか？

1 中学校（ 2 ）年生 87

2. あなたの性別を教えてください。（該当するものに「○」をつけてください）

1 男性 42 2 女性 45

3. 今回の出前授業は満足できましたか？（該当するものに「○」をつけてください）

1 十分満足できた 2 満足できた 3 普通
 51 28 6

4 やや満足できなかった 5 不満足
 2 0

4. 今回の出前授業の難易度はどうでしたか？（該当するものに「○」をつけてください）

1 とても難しかった 2 難しかった 3 ちょうど良かった
 12 29 39

4 簡単だった 5 簡単すぎた
 7 0

5. 今後、出前授業（今日行った授業）で行って欲しいと思うテーマあれば書いて下さい。

太陽光などでいろいろな物をつくってほしい。／薬品をつかった実験。／ソーラーパネル／ソーラーカー／電気系の実験をしたい。／ミニカーみたいなやつをつくりたい（3名）／クリーンエネルギー／太陽光はどれだけためれるか。／電池なしで動くやつをやってほしい。／化学反応

6. その他、気になったことやご意見があれば書いて下さい。

高専の電子工学科ときいて最初はむずかしそうだと思いましたが、とても面白かったです！またこういう授業をして頂けたら嬉しいです。／今後の理科の勉強に役立つ実験でよかったと思う。／なかなか回らなくて、難しかった。／あまりよくわからないので、もっとたくさん知りたいと思いました。／まわったとき、とてもうれしかったです！（2名）／あまりまわらなかつたけど新しい体験ができて楽しかったです。／私は、今日作ったモーターなど私は不器用なので作れないと思っていたけど、今日作ることができて私もできるんだと思って自信が持てました。ありがとうございます。／とても楽しかったです。また機会があればよろしく願います。／とても楽しかったです。（2名）／モーターづくりは楽しかったです。また出前授業をやりたいです。太陽光はすごいんですね。／ソーラーカーってどれくらいの速さなんですか？／むずかしくてなかなかできなかったけど、絶対できるよとか声をかけてくれてとてもうれしかったです。／いろいろな物を使いました。

（出典 総務課資料）

資料B-1-②-9

中学生英語暗誦&スピーチコンテスト参加者数

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
スピーチの部	16	18	20	15	11
ロール・プレイの部	15	19	30	64	34

鈴鹿高専杯争奪中学校柔剣道大会参加者数

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
柔道男子参加校	24	22	19	23	25
柔道男子参加人数	156	141	127	149	166
柔道女子参加校	18	15	10	17	14
柔道女子参加人数	67	52	37	49	45
剣道男子参加校	28	31	30	33	36
剣道男子参加人数	184	198	185	208	228
剣道女子参加校	22	25	26	25	25
剣道女子参加人数	125	141	150	138	154

(出典 学生課資料)

項目	4(5) 公開講座の実施状況(平成 22 年度)	
担当	広報交流委員会(地域交流分科会)	
年度 計画	<p>① 市民への図書館、体育館等の施設開放について再検討する。</p> <p>② 教育委員会や小・中学校と連携した事業、オープンキャンパス、公開授業、出前授業等を通して地域交流活動を推進する。</p> <p>③ 公開講座、地域交流活動等が享受者の満足度等からみて成果があがっているか否かの検討を行う。また、本校の策定した正規課程の学生以外に対する教育サービスの目的に照らしてその達成状況の点検と、必要であれば改善策の策定を行う。</p> <p>④ 「子育て応援！わくわくフェスタ」への出展テーマ、内容について検討する。</p> <p>⑤ 環境教育・研究資源の地域貢献への活用を図る。</p> <p>[追加・修正事項]</p> <p>【追加】</p> <p>【修正】</p>	
実績	<p>① 本校施設の一般利用について周知した結果、年間で概ね次のような状況であった。図書館→貸出 750 冊、利用者→ 450 人。体育館等の利用→毎月 4～5 件。</p> <p>② 各5学科、ならびに教育研究支援室による公開講座を、夏休み期間に実施。出前授業については、旭が丘小、平田野中、天栄中、鼓ヶ浦中、白鳥中で実施。</p> <p>③ 多くの活動によって成果が上がっているが、活動が多岐にわたるため、情報の集約と整理が必要である。</p> <p>④ 「子育て応援！わくわくフェスタ」は、電子情報工学科が担当、出展した。</p> <p>⑤ 環境教育に関するテキストが作成され、特活等の時間を利用して教育活動に利用されている。また、「鈴鹿高専研究シーズ集」第 2 版が編纂され、広く地域へ本校の研究資源を発信している。</p>	
自己 評価	<p>③成果の検討、達成状況の点検等が、まだ十分でないところがある。</p>	<p>自己評定</p> <p>4</p>
次年 度の 検討 事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施後の成果の検討を十分に行う。 ・ 出前授業実施にあたり、外部資金の獲得を検討する。 ・ 発展的な地域広報のあり方(ショッピングモールの活用や、サテライトキャンパス等)について検討する。 	

(出典 総務課資料)

平成23年度 第1回 地域交流分科会 議事要旨

日 時：平成23年4月28日（木） 17：00～18：00

場 所：第2会議室

出席者：末次（委員長）、山崎、丹波、辻、箕浦、山口、南部（智）、森（邦）

陪 席：田中

議 事

1. SPP 事業応募の結果と、本年度の出前授業計画について

委員長から昨年度末に応募した SPP 事業が不採択であったことが報告された。

不採択ではあったが、応募に際し、小中学校へ出前授業の募集を行ったところ、2月末日で小学校3校、中学校2校の要望があった（別紙2参照）ため、これをどのように対応するか協議した。

<協議内容の概略>

- ・要望に偏りがある（具体的には E/I 科の「乾電池と磁石でモータを作る」と、C 科の「温度が変わると？」）ため、どう対処するか？

例えば、①各校の第1希望については実施する。

②第2希望以降で E/I 科と C 科以外のものがあれば実施する。

③第2希望以降でも、可能であれば対応する。

- ・SSP 事業（科学講座）の実施を想定していたため、出前授業に対応したテーマにはなっていない。再度小中学校側へ「出前授業として実施して欲しい内容」のアンケートをして欲しい（S 科）。

など。

以上の協議内容を、学科に持ち帰って検討することとなった（5月末までに）

2. ものづくり体験教室について

(1) 以前からの課題となっていた Web からの申し込みを今年度から追加し、Web と往復はがきの両方で応募することを委員長の提案により、了承された。（別紙4参照）

(2) オープンカレッジは入試対策室の企画であり、中学生対象で受験生確保の明確な意図があるが、ものづくり体験教室は広く学校を開放して地域と交流する目的がある。従って、ものづくり体験教室は小学生も対象にしていく方向が確認された。また、このように上記の二つの企画は主旨が若干異なるため、一緒にして1回で済ますということとはできないが、効率的・有機的な相互の乗り入れを考える必要がある旨、話し合いがなされた。

3. 提案「地域と密着した鈴鹿高専駅前サテライトキャンパスの常設展示」に対する意見の集約状況について

教職員提案制度で上記の提案がなされ、地域交流分科会委員に意見を求め、まとめたものが委員長から示された（別紙5参照）。

結果的に「常設サテライトキャンパス」とは行けそうにないが、何らかの手段で本校の情報を効果的に外部へ発信することを考えていく必要があることが報告された。

（出典 平成23年度第1回地域交流分科会 議事要旨）

(分析結果とその根拠理由)

本校の公開講座は多方面の分野にわたって毎年継続的に多くの参加者を集めている。小学校への出前実験教室では派遣希望の学校が多く対応に苦慮するほどであり、人気の高さが伺える。社会のニーズを反映した公開講座の企画・運営が行われているといえる。アンケート結果からも公開講座としての満足度は高いものになっており、活動の成果が上がっているといえる。また、活動の成果を検証し改善を図るための体制も十分に確立しており機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教育サービスは「生涯学習」「小中学生向け」の2つの分野に分けられており、広報活動を充分に行うことにより、毎年継続的に多くの受講者を集めている。受講者の満足度も極めて高い。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 選択的評価事項Bの自己評価の概要

本校は、組織的・計画的に公開講座等の企画運営を行っている。公開講座等は「生涯学習に関する講座」「小中学生向け講座」の2つに分かれ、各学科の特色を生かした内容で実施している。いずれの公開講座も、企業や社会に明解に趣旨が伝達されるよう、本校ウェブサイトや地元の新聞、ケーブルテレビ等のメディアを用いて十分な広報活動を行っている。

生涯学習に関する講座では、まず技術者向けの講座として、本校専攻科の正規授業が受講できる「工学専門講座」等を開催している。また平成5年度よりほぼ毎年、図書館主催の「文化講座」を開催し、平成16年度以降は、三重県生涯学習センター主催の一般市民向け「みえアカデミックセミナー」を本校の複数教員が担当している。そのほか、「おいん鈴鹿産業フェスタ」「三重県の21世紀リーディング産業展」や「産学官研究交流フォーラム」など、地域の技術者教育や産業の発展を目的とした各種イベントへの参加を行っている。小中学生向け講座では「ものづくり体験教室」や「オープンカレッジ」等を実施している。また、地域の小学校、中学校へ出前授業を行う「出前実験教室」の他、「中学生英語暗誦&スピーチコンテスト」「鈴鹿高専杯争奪中学校柔剣道大会」等も実施している。近年では「続け、理系の卵たち！描け、貴女の未来予想図！」のイベントを実施し、女子中高生の進路選択支援を行っている。さらに「子育て応援！わくわくフェスタ」に出展しており、鈴鹿高専駅前キャンパス「鈴鹿高専みんなの理科教室」を利用して種々の講習会も行っている。

本校の公開講座は多方面の分野にわたって毎年継続的に多くの参加者を集めており、社会のニーズを反映した公開講座の企画・運営を行っている。アンケート結果からも公開講座の満足度は高いものになっており、公開講座等の教育サービス活動の成果は十分上がっている。今後も活動の成果を検証し、改善を図るための努力を継続的に行っていく。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。